

2024年(令和6年)3月27日(水)第27回例会(通算3009回)

2023-24年度 ◆クラブ会長テーマ◆ 「奉仕の輪を広げよう」

会長：前原 博一 副会長：宮城 早人 幹事：今西 敦之  
直前会長：大浜 勇人 副幹事：新里 裕樹 会場監督(SAA)委員長：新川 正人



世界に希望を生み出そう

2023-24年度RI会長テーマ

RI会長：ゴードンR.マッキナリー

栃木一夫ガバナー 地区基本方針

「持続可能な元気なクラブを実現しよう」

地区の合言葉

「ロータリアンの心に火をつけよう」

” Get the joy of Rotary”

今月のロータリーレート 1\$¥151

八重山の民謡

ツイドゥルイ

千鳥節(二揚)

※鳩間島は、<sup>ニオ</sup>鳩の浮巢のような小島である。この小さな島に、なんと12箇所の名称を持つ浜がある。その浜辺で千鳥の群れが飛び遊ぶ数の多い程、島に豊年が訪れると堅く信じられている。

(八重山民謡誌より)(詠人知らず)

●<sup>マイ</sup>前<sup>バマ</sup>ぬ<sup>ツイドゥルイ</sup>浜<sup>トゥルイ</sup>ヤウ<sup>トゥブ</sup>千<sup>トゥルイ</sup>鳥<sup>トゥルイ</sup>ヤウ<sup>トゥルイ</sup>鳥<sup>トゥルイ</sup>飛<sup>トゥルイ</sup>ぶ<sup>トゥルイ</sup>鳥(前の浜に、むれをなしている千鳥)  
※ハリ弥勒世ぬヤウ千鳥(以下同じ)

●い<sup>バマ</sup>んだ<sup>バマ</sup>浜

夜雨節(二揚)

※波照間島は、天水田が多く雨の降る日を祈願し続ける島である。また粟の名産地で有名でもある。昼は農耕に従事し夜の休憩中に降る雨は非常に歓迎されるものである。(八重山民謡誌より)(詠人知らず)

●<sup>ユルアミ</sup>夜<sup>フ</sup>雨<sup>トゥシ</sup>ぬ<sup>ユガ</sup>降<sup>フドシ</sup>る<sup>フドシ</sup>年<sup>フドシ</sup>世<sup>フドシ</sup>果<sup>フドシ</sup>報<sup>フドシ</sup>年<sup>フドシ</sup>で<sup>フドシ</sup>む<sup>フドシ</sup>ぬ(夜雨が降る年は、豊年の年である)  
※スリ<sup>ユバ</sup>ユバ<sup>ナラレ</sup>ナラレー<sup>スリ</sup>スリ<sup>ユバ</sup>ユバ<sup>ナラレ</sup>(以下同じ)

●<sup>イニアフ</sup>稲<sup>ムギマミ</sup>粟<sup>ムギマミ</sup>んなを<sup>ムギマミ</sup>らし<sup>ムギマミ</sup>麦<sup>ムギマミ</sup>豆<sup>ムギマミ</sup>んみ<sup>ムギマミ</sup>きらし(五穀を豊穰で、麦豆も豊作である)

3のプログラム

3/27(水)夜間例会:宮古島RCとの合同例会

例会日 水曜日 12:30~13:30  
事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町 1-1-4  
URL <http://ishigaki-rotary.jimdo.com>

例会場 アートホテル石垣島(0980)83-3311  
TEL/FAX(0980)83-2917  
E-mail [ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp](mailto:ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp)

◇総会員数：57名（名誉会員2名・出席免除会員2名）

◇出席義務会員数：53名 ◇出席人数：29名 欠席人数：24名 出席率：54.72%

《司会進行：玉吉 一吉・黒島 勝》

◇ロータリーソング：手に手つないで 四つのテスト ◇ソングリーダー：西表 浩司

◇ゲスト：大橋秀平様（Space Aviation 株式会社 執行役員 事業開発部長兼広報）

◇メイクアップ：新 賢次 前木 繫孝 黒島 栄作 吉田 貴紀 新川 正人 宮良 幸男

◆ 会長 挨拶 ◆  
前原 博一



皆様こんにちは

本日も例会に参加して頂きありがとうございます。

今回は、タイムスリップのお話をしたいと思います。

先日、娘の高校入試がありました。私は子供が3人いますが、一番下の子の娘の高校入試のことです。高校の進学について、上2人は推薦入学でしたが、この子も推薦入学するものだろうとばかり思っていたのですが、試験を選択しました。

入試が行われた2日間、私が試験会場まで送り届けたのですが、車の中では、試験に対する不安からくる緊張感と、また逆に試験日を楽しみに待っていました、というワクワク感の娘の姿をみて、ふと私自身の高校受験のことを思い出しました。

あれから 35 年くらい長い時間が経過していますが、娘を見ていて自分も同じような経験をしたことを一瞬で思い出し、体験したことになぜか感動しました。

今更で当たり前のことではありますが、心は良くも悪くも一瞬でタイムスリップすることができ、あの頃にいつでも戻ることができるということです。

娘の高校受験を通してではありますが、このような気づきできたことは本当によかったと思います。

◆ 幹事報告・報告:今西 敦之 ◆

皆さんこんにちは。本日、卓話の大橋様ようこそおいでくださいました。後ほどよろしく願いいたします。本日の幹事報告は2点でございます。

1).市役所の障がい福祉課より自殺対策こころの相談窓口ポスターの周知について依頼文書が届いております。A4 サイズのポスターが毎年届いておりますが、会員の皆様の職場または事業所にてお貼り頂きたいとの依頼でございます。受付に置いてございますので、お帰りの際にお持ちいただきますようお願い申し上げます。

2).先週の例会でも大浜親睦委員長よりご案内がございましたが、岡崎南 RC の 60 周年記念式典祝賀会の案内が届いております。5/14(火)が祈念式典となっております  
前日の5/13(火)には前夜祭がございます。登録料は1万円となっております。締切が3/15(金)となっておりますので、ご出席される会員の皆様は、事務局までご連絡いただきますようお願い申し上げます。

☆ 会員・委員会からの報告 ☆

村松秀規 SAA 委員:先日、銚子 RC 金島さん、宮内さんから連絡がありまして、米山奨学生が日本に来て薬剤師の試験に合格したそのお祝いに石垣島にいらっしゃったということで、石垣 RC のバナーと銚子 RC のバナーを交換いたしました。銚子 RC がちょうど 60 周年を迎えた時の DVD も一緒に頂きました。57 分ほどありますが、何かの機会に皆様にご覧頂けたらとのことです。

◆ ゲスト卓話：大橋 秀平 氏 ◆

(Space Aviation(株) 執行役員 事業開発部長 兼 広報)

テーマ:八重山諸島におけるヘリコプター事業

皆さん、こんにちは。まず初めに自己紹介からさせていただきます。私は今、Space Aviation という会社で事業開発部長と広報をしております。もう一つに、嘱託の特別職員として、神戸市役所で報道を担当する業務をしております。殆どリモートなんですけれども、たまに神戸市の本庁に行って仕事をしたりもしています。自宅が神戸で、これまでも神戸市で仕事をしていた事もあり、そのご縁で今も勤務をしております。

多くは、パブリックセクターで、東京オリンピック・パラリンピック・パブリックの報道対応や、ワールドマスターズゲームズ、そういった組織委員会の中で報道対応をするキャリアを直近でしてきました。一番初めは、ラルフローレンというアパレルの会社で衣料の PR、日本マイクロソフトやガーミンでは、IT 基金に関する PR、記者発表とかをやって参りました。今、私が石垣島でやっている仕事についてですけども、今年の 2 月に石垣島でヘリコプターでの事業をスタートするに当たって、その開発業務をメインで行って来ております。

人材の採用や備品の調達一式をやってきておまして、また販路を広げるために取り組み先の開拓、あるいは自治体、竹富町や石垣市との協議、そういった事も沢山やって来ております。もう一方では、北海道から沖縄まで、全国各地でヘリコプターの事業をやっておまして、そういった際にイベントを行う場面での広報などをやっております。

私たちの会社はヘリコプターを 43 機、飛行機 3 機の計 46 機持っておりまして、全国で事業を展開しております。ヘリコプターとはどんな乗り物かということをご紹介させていただきます。ヘリコプターというのは、正式名称は回転翼航空機と呼びます。皆さんが日頃、移動で使われる飛行機については固定翼という呼び方をしています。民間のヘリコプターに関して、日本国内で登録されている機種というのは 854 機、世界を見ますと世界の民間航空機は 2 万 6 千機ほどと言われておまして、その中でも日本の民間ヘリの数というのはアジアで最も多いと言われております。

自衛隊ですとか公的機関が持っているヘリコプターの数はここには入っていません。あくまで商業用として使われている機体に関しての登録数になっております。日本国内においては、大きいエンジンを積んだ機体がメジャーになっているというのは日本国内の傾向になっています。

ヘリコプターはどうやって飛ぶのか？というのを簡単に説明しますと、4m～5m ぐらいの大きいプロペラが高速で回転して、それをもって揚力を生み離陸をし、方向転換をしたりするという乗り物です。飛行機の場合は滑走路を高速で走るということでもってその揚力を得てフライトをします。今、石垣島で使っている機体に関して言いますと、1秒に46回転と、かなり高速の回転で揚力を得て飛行しています。そのメリットとしては、滑走路がいないこと、また通常の飛行機と比べて、その機動力の高さがゆえに短距離の移動に適していると言われています。目安は大体、200 \*<sub>0</sub>～600 \*<sub>0</sub>圏内というところですが、また、高低差のある位置を短時間で移動することが出来るのがメリットになります。また、一方でデメリットには、機体によっては有視界飛行に限定されるということです。通常の飛行機はオートパイロットが付いていたり、身近なところでいきますと海上保安庁のヘリコプターもオートパイロットの機能が付いていますので、あまり天候を気にせずに飛ぶことができます。今、石垣島で我々が使っている機体に関しては、完全に有視界飛行の機体になりますので、視界不良になりますと飛べなくなるという点では少しデメリットになっています。また、エンジン音と大きい羽根が風を切る音に皆さん馴染みがないので、そのこと自体にデメリットと捉えられるケースが多いです。実際に、回っている直下に立ったところで音を測るとおおよそ90デシベル以上の音が出るという乗り物になっています。また、世界を見てみますと、欧米中心に使われている例としては、ビジネスシーンでの移動手段として使われることが多いです。アメリカ、北米の田舎に行きますと、自分の畑を確認するために、牧場とか畑の主がヘリコプターに乗って、上空から点検するというようなこともよくあります。また、富裕層の方々に関して言いますと、他の人たちと同じの箱で移動したくないと、そういう利用があつて、そのセキュリティだったり、プライバシーを守るという点で使われるケースが多いです。また一方、日本の多くの方がこのヘリコプターという乗り物に対して、心理的な距離を置く傾向にあります。全国で遊覧のフライト、あるいはチャーターを提供しておりますが、如何せん音に関して、あるいは世界中でおこる、落ちたりするリスク、そういうところに対して大きく距離を置かれていることがあります。それは事実で、そこは少しでもその距離を縮めていく努力をしているところです。テレビCMをご覧になっている方でしたら分かると思いますが、まず富裕層が乗る、遊ぶための乗り物としてのイメージですとか、中東のエリアでお金持ちがヘリコプターに乗っている象徴的な使われ方をしたコマーシャルもありますけれども、こういったケース、富裕層が使う乗り物、そういったイメージですね。実際には我々もそういう事業をしていますので、その一例をご紹介しますと、来月行われますF1日本グランプリ鈴鹿サーキットが開催されます。首都圏、関西地方から三重県の鈴鹿サーキットまでヘリコブ

ターで移動されるというお客様がかなり多くいらっしゃいます。我々43機のヘリコプターを持っていますか、来月は6機のヘリコプターを動かしてピストン輸送ということで計画しております。ヘリ会社というのは、JAL・ANAとかも含めて航空会社は国内で50社ほどありますが、その中でヘリを持っている事業者さんは、お客様の取り扱いといいますか、逆にヘリで連れてって行ける航空会社はないかとリクエストを多く受けております。

日本でそのフライトを乗るにはどれぐらいのお金がかかるのかと申しますと、東京の新木場にあります東京ヘリポートから鈴鹿サーキットまでの移動時間はおよそ2時間5分です。陸路で東京から鈴鹿サーキットまで移動しようとするとおおよそ1日かかるところ、半日足らずで移動することができます。5人乗りの機体で販売した場合は、1,717,000円、1人頭でいたい34万円ぐらいです。そのぐらいかけて移動する方は実際に多くいらっしゃるのも事実でございます。また、ドラマとかでも見ていただくことはあるかと思いますが、有事の際に使われるというヘリコプターのイメージも凄く大きいと思っております。自衛隊、消防、警察、海上保安庁、マスコミのヘリ、有事の際に飛ぶ乗り物というイメージがだいぶ馴染んでいるというのが事実にあるかなと思っております。そういったところで心理的な距離を如何に縮めていけるかというところで、私たちのやっている努力の部分を少しご紹介できればと思います。まず超富裕層が乗る乗り物だけではないですよと、誰もが手の届く乗り物なんですということを積極的にアピールしていくこと、また公的機関の自衛隊や消防といったところだけが使う乗り物でもない、いわゆるJALやANA、RACなど航空会社さんと同様に所用で乗れる乗り物なんだと、そういったイメージを普及していきたいというふうに思っております。今、石垣島で展開している商品は7,000円から高いものでチャーター含めると1日貸切で80万円という値段でかなり価格差がありますが、そういったプランを提供しています。実際に、お客様のコメントも体験してみたいというところから、比較的リーズナブルな商品を選ぶ方が多くいらっしゃいます。これから春休みのシーズンになってきますので、より多くの方が利用されるのかなというところも期待しています。より更なるリクエストに答えられるように、ヘリコプターで提供できるものというものを探して、また開発をしています。地元ツアー会社さんとコラボして作ったり、オーダーメイドとして内地から大型の機体を持って来るとか、そういうことも含めた手配が出来るようにしたいなと思っております。そういった意味でいきますと、移動手段としてヘリコプターがより当たり前になるというところ、またディープ・ツーリズムと最近では言いますが、日本は世界に誇るエリア、これが八重山諸島ではないかと思っております。新たな旅行コンテンツであること、そして付加価値、学び、今まで知ることすらなかったエリアが見れる、知れる、そういう体験を提供できるのは凄く大きいなというふうに思っております。もう一方、大事なポイントとしてあるのが、観光危機管理になります。陸路と海路が絶たれてしまった場合には空路として活用できる場面にヘリコプターというのはその威力というのを

發揮します。滑走路も道路もいらない、開けた平地さえあれば離着陸ができる、そういったメリットが凄く大きくなります。今、石垣島で使っている機体ですと、200 ㎡ぐらいまでの人員ないし貨物の輸送が可能になります。よりもっと大きなものとなりますと、山小屋で荷揚げで使うような中型機を持って来れば 500 ㎡・600 ㎡、そういった物も運ぶことができます。年始にありました、能登半島地震でも我々の機体 4 機を派遣しまして、孤立支援地域の避難所へ物資を運んだり、孤立してしまっところからの脱出の支援をしたり、上空から様子を巡察するようなことを、述べ 2 週間ほど能登地域で派遣をして、支援にあたって来ました。これを八重山地域で考えますと、竹富町に関してはある程度離着陸をできる場所はネットワーク化が出来てきているものと思っています。これからの課題、私たちが今年 1 年でしっかり充実させたいと思っているのは、石垣島の空港より北側は、離着陸できる場所がない空白地帯、また南側の南ぬ浜町についても橋 1 本以外アクセスできる手段がなく車両の移動が困難になってくるというところを我々としては、少しでもネットワーク、離着陸できる環境整備というところに向けて動いていけたらなというふうに思っております。石垣市とも連携提携を結ばせて頂きました。役所が自前でヘリコプターを持つというのは基本困難ですが、我々の機体を仮想的なアセットとして使って頂くということで上空からの視察、巡察、物資の輸送、そういうところに活用いただく、その代わりと言ってはなんですが、平時の際の観光振興でよりいろんなところをフライト出来るようにしていくという事を考えてお話を進めてきました。以上になります。ありがとうございました。



大橋秀平様 ありがとうございました。

本日のニコニコ: ☆前原博一会長: 大橋様、本日は卓話ありがとうございました。感謝です。

☆今西敦之幹事: 大橋様、本日の卓話よろしくお願致します。

☆宮城早人氏: 大橋様、本日の素晴らしい卓話ありがとうございました。

☆大田次男幸氏: 心身健康で明日誕生日を迎えます。今後ともよろしくお願致します。りです。卓話ありがとうございました。

☆松田新一郎氏: 大橋さん、本日はありがとうございます。港の防災は急務です。ぜひよろしくお願いたします。また飲みましょう!

☆木下省三氏: 大橋様、卓話ありがとうございました。

◆BOX ¥6,000 (累計 ¥500,830) ◆コイン ¥3,673 (累計 ¥44,411) 合計 ¥545,241

東京上野 RC 創立 40 周年記念式典祝賀会に参加して来ました。



来賓祝辞: 前原 博一 会長



於: 浅草ビューホテル 3月18日(月)



大浜一郎氏 7日(木)  
宮良幸男氏 13日(水) 大田次男氏 14日(木)

比嘉一史氏 7日(木)  
玉城一吉氏 14日(木) 南波正幸氏 29日(金)

